



TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

Faculty of Humanities and Social Sciences
Graduate School of Humanities

2025

東京都立大学
人文社会学部
人文科学研究科



—— 人文社会学部／人文科学研究科からのメッセージ ——

東京都立大学人文社会学部は、2018年4月に首都大学東京都市教養学部人文・社会系から人文社会学部に改組され、2020年4月からは大学全体の名称が東京都立大学に改称されました。

人文社会学部／人文科学研究科は、人類が営々として築いてきた人文社会科学にかかわる知的財産を相続し、それを現代に生きるわれわれ(自己－他者)の問題解決の糧として役立てつつ、新たな知見を加えて未来に継承するための格闘と躍動の場です。人間とは何か、社会とは何か、心とは何か、歴史とは何か、言葉とは何か……、ラディカルなものからアクチュアルなものまで、問いは無限にあります。ここ数十年の急激な情報技術革命は、われわれの生活にかつてない刺激と効率と利便をもたらし、諸領域にわたる創造的活動の余白を広げてくれました。スマホでググれば多くの知識と情報が立ちどころに得られます。しかし、そこで満足してしまえば大学で学ぶ意味はありません。知識と情報の根拠を吟味し、先人の営為に敬意を払いつつ、師友との協働によって、さらに深く、さらに高く、さらに広く、知の領野を切り開かねばなりません。また、そのことによってこそ、この時代をよりよく生きる知恵と方途を探ることが可能になるのです。

知的好奇心と意欲にあふれた皆さんの入学をお待ちしています。

人文社会学部の沿革と特色

人文社会学部の母体となったのは1949(昭和24)年創立の東京都立大学人文学部で、そのルーツは1929(昭和4)年に設立された旧制府立高等学校にさかのぼることができます。人文社会学部は東京都立大学時代からの伝統を受け継ぎ、高い評価と実績があります。少人数教育が特色で、卒業論文では、教員一人に対して学生は数人。教員によるきめ細かい指導のもと、学生の一人ひとりが高いレベルの研究を行います。学びへの探求心が強く、大学院を志望する学生が多いのも特色で、全国の大学に数多くの教員を送り出しています。

人文社会学部は人間社会学科の7教室と人文学科の8教室から構成されます。

人間社会学科の社会学、社会人類学、社会福祉学、心理学、教育学、言語科学、日本語教育学の各教室では、急激に変化する現代社会で発生する様々な現象や課題、多様な文化に基づく生活や価値観、個人が周辺環境において他者と関わりながら成長し適応する様子や教育のあり方、人間社会での営みにかかせない言語について、諸科学を統合し理論的かつ実践的に学ぶことができます。

人文学科では、哲学、歴史学・考古学、表象文化論、日本文化論、中国文化論、英語圏文化論、ドイツ語圏文化論、フランス語圏文化論の各教室において、国際的な知識を深めるとともに、それぞれの専門分野での学問的探究を行います。歴史と思想、宗教と社会、言語と文化、時間と空間など、各分野との横断的な学びを積極的に取り入れ、これまでにない複合的な視点で各分野への理解をさらに深めます。



人文科学研究科の沿革と特色

大学院人文科学研究科の前身の東京都立大学大学院人文科学研究科は1953(昭和28)年、7専攻の修士課程設置に始まり、1973(昭和48)年の史学専攻の博士課程認可によって、全専攻の大学院設置が完成をみました。その後、2005(平成17)年の法人化移行に伴い、首都大学東京大学院人文科学研究科として、そのまま研究教育組織を引き継ぎましたが、2006(平成18)年4月からは、従来、社会科学研究所に所属していた3分野を含めて、「社会行動学専攻」「人間科学専攻」「文化基礎論専攻」「文化関係論専攻」の4専攻に再編され、現在の東京都立大学大学院人文科学研究科に至っています。

東京都立大学大学院の半世紀にわたる研究教育の実績を受け継ぎ、新たな体制のもとでも、内外ともに逆境にある人文学の発展のため、多様な授業科目と少人数教育の伝統を守りながら、志のある教育者、研究者、高度専門職従事者を育成していきたいと願っています。

組織

組織

人文社会学部

学科

人間社会学科

人文学科

教室

頁

社会学

005

社会人類学

007

社会福祉学

009

心理学

011

教育学

015

言語科学

017

日本語教育学

019

哲学(哲学・西洋古典学)

021

歴史学・考古学

023

表象文化論

025

日本文化論

027

中国文化論

029

英語圏文化論

031

ドイツ語圏文化論

033

フランス語圏文化論

035

Organization

専攻	分野	教室(募集単位)	頁
社会行動学	社会学	社会学	005
	社会人類学	社会人類学	007
	社会福祉学	社会福祉学	009
人間科学	心理学	心理学	011
	臨床心理学	臨床心理学(博士前期課程のみ)	012
	教育学	教育学	015
	言語科学	言語科学	017
	日本語教育学	日本語教育学	019
文化基礎論	哲学	哲学	021
	歴史学・考古学	歴史学・考古学	023
	表象文化論	表象文化論	025
文化関係論	日本・中国 文化論	日本文学	027
		中国文学	029
	欧米文化論	英文学	031
		ドイツ文学	033
		フランス文学	035

人文科学研究科



理論と実証の両輪で社会的な実践を支援

社会学分野・教室は、社会変動や社会問題に理論的&実証的にアプローチし、得られた知識を問題解決に活用できる社会人や研究者を養成します。1955年の設置以来、東京など大都市圏だけでなく、地方中小都市の社会変動と社会問題に対する実証的な調査研究を積み重ね、都市社会学分野の研究者も多数輩出してきました。社会学の専門知識を持つ実証的アプローチのできる人材への要求の高まりに応じ、社会調査士・専門社会調査士の資格を与える充実した態勢を備えます。教員の研究テーマも、コミュニティ論・エスニシティ論・社会階層論・システム理論・サブカルチャー論・ジェンダー論・保健医療論など多彩です。学生や院生は各教員が得意とするテーマに沿った多彩な講義や演習に参加できます。

○所属教員

左古 輝人 [教授]

Prof. SAKO, Teruhito
社会科学概念史、データマイニングの社会学

丹野 清人 [教授]

Prof. TANNO, Kiyoto
エスニシティ論、外国人労働者研究

中川 薫 [教授]

Prof. NAKAGAWA, Kaoru
保健医療社会学、福祉社会学

不破 麻紀子 [教授]

Prof. FUWA, Makiko
ジェンダー研究、家族社会学

山下 祐介 [教授]

Prof. YAMASHITA, Yusuke
都市社会学、地域社会学、限界集落論

大井 慈郎 [准教授]

Associate Prof. OOI, Jiro
都市社会学、途上国都市化研究、介護予防事業研究

畑山 要介 [准教授]

Associate Prof. HATAYAMA, Yosuke
社会学理論、経済社会学、消費社会学論

跡部 千慧 [助教]

Assistant Prof. ATOBE, Chisato
労働と家族の社会学、ジェンダー研究

○取得できる学位・資格

各資格には必要科目(例:教員免許は教職科目)の単位取得が必要です。

学士(社会学)、修士(社会学)、博士(社会学)、社会調査士、専門社会調査士(大学院)

○近年の卒業生の進路・就職先(一部)

東日本電信電話(NTT東日本)、野村不動産アーバンネット、SMBC日興証券、長崎新聞社、富士電機、東京都庁、埼玉県庁、琉球朝日放送、パイオニア、総務省

○近年の学位論文一覧(一部)

【卒業論文】

- 「withコロナ時代におけるマスク社会に関する考察」
- 「父親の育児協力が子どもの成人後のメンタルヘルスに及ぼす影響」
- 「博多祇園山笠の歴史の変遷に見る地域コミュニティの実像」
- 「若者の幸福感と自己アイデンティティの関係について」
- 「少年犯罪凶悪化はどのように語られたか——テキストマイニングによる少年犯罪の分析」

【修士論文】

- 「移民の子どもの就学にみる社会的統合と排除——社会関係資本を手がかりにして」
- 「中国における成人のADHDの医療問題に関する研究」
- 「都市における個性をもつ場所に関する社会学的考察——中野ブロードウェイの事例を通して」
- 「女性の議会への参入をめぐる問題——神奈川県地方議会を調査対象として」

【博士論文】

- 「現代都市空間の変容のかたち——創造都市・スマートシティを事例に」
- 「都市社会空間構造研究——戦後日本都市の空間構造」
- 「戦後日本における先祖祭祀の変容に関する社会学的研究——祭祀の永続性の希求と社会的アクターの参与」
- 「現代日本女性の社会的地位とその再生産——ジェンダーと階層による複合的不平等」

社会人類学

人間社会学科／社会行動学専攻



[Metropolitan State University of Denverとの交流会において]

世界各地の社会や文化の見方を学ぼう！

社会人類学教室では、日本を含むアジア、アフリカ、オセアニア、南北アメリカ、ヨーロッパといった様々な地域におけるフィールドワークを基盤として、地球上の社会や文化の多様性を学びます。そして、世界各地の人びとがもつ、法・政治・宗教・芸術などの特色を理解するための基本的姿勢を身に付けます。グローバル化がかつてないスピードで進む世界において、ローカルな生活様式や価値観も影響を受けずにはられません。そこで本教室では、マクロな視点とミクロな視点を往復しながら、人びとの今日的なあり方を的確に捉える姿勢を育みます。

社会(文化)人類学は、多くの人類学者が自分にとって当初は身近ではなかった人びとと生活を共にし、そこで得た知見を深く思索し、自らの生に取り込むことで発展してきました。その流れを汲み、本教室でも、今の自分には容易に理解できない様々な物事について、国内外の現地に赴いて見聞したい、他者に学びたい、様々なメディアを分析して捉えたいといった意識を持つ、オープンマインドで行動的な学生を求めています。

1953年の創設以来、本教室は一貫して日本における社会(文化)人類学の専門的教育研究者の育成に力を注いできました。一方、ここで学んだ他者に対する姿勢や世界に関する知識を持ちつつ、各地域や人びとの実情を把握することのできる、実践的で柔軟な姿勢を持った職業人も多数輩出してきました。

○所属教員

綾部 真雄 [教授]

Prof. AYABE, Masao

文化人類学、東南アジア研究、エスニシティ研究、時事人類学
(東南アジア大陸部)

石田 慎一郎 [教授]

Associate Prof. ISHIDA, Shin-ichiro

社会人類学、法人類学、東アフリカ民族誌(東アフリカ、マレーシア)

田沼 幸子 [教授]

Associate Prof. TANUMA, Sachiko

文化人類学、人類学と映像、ディアスポラ、ネオリベラリズム

河合 洋尚 [准教授]

Associate Prof. KAWAI, Hironao

社会人類学、景観人類学、中国民俗研究(東アジア、華僑華人社会)

河野 正治 [准教授]

Associate Prof. KAWANO, Masaharu

文化人類学、ミクロネシア民族誌、伝統的権威

深山 直子 [准教授]

Associate Prof. FUKAYAMA, Naoko

社会人類学、オセアニア研究、先住民研究、沖縄研究

澤井 充生 [助教]

Assistant Prof. SAWAI, Mitsuo

社会人類学、中国民族学、回族研究、イスラーム地域研究、政治人類学(中国)

○取得できる学位・資格

各資格には必要科目(例:教員免許は教職科目)の単位取得が必要です。

学士(社会人類学)・修士(社会人類学)・博士(社会人類学)
教員免許 学部:中学校一種(社会)、高等学校一種(公民)
博士前期課程:中学校専修(社会)、高等学校専修(公民)
社会調査士資格、学芸員資格

○近年の卒業生の進路・就職先(一部)

【学部卒業生】

読売新聞、野澤組、ウルシステムズ、博点、JTB、藤田観光、J:COM、タカラレーベン、ボーダレス・ジャパン、三菱商事、丸紅、ジョンソン・エンド・ジョンソン、成城石井、スズキ自動車、JAICE日本国際文化交流会、横浜農業協同組合、東京みどり農業協同組合、地域医療振興協会、中小企業基盤整備機構、日本交通、外務省、法務省、東京都庁、千葉県庁、西東京市役所、八王子市役所、相模原市役所、渋谷区役所、台東区役所、裁判所、仙台出入国在留管理局、東京水道サービス、片柳学園、自由の森学園、大学院進学(東京都立大学など)。

【博士前期課程修了生】

農文協、日刊工業新聞、瀬戸内海放送、日本赤十字社、社会保険庁、青年海外協力隊調整員、うつつ堂(起業)、カインズ、ノジマ、フリーライター、タタ・モーターズ、TIS、東京大学、大学院進学(東京都立大学、神奈川大学、東京外国語大学)。

【博士後期課程修了生】

日本学術振興会特別研究員PD、日本学術振興会特別研究員RPD、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、国立民族学博物館、江戸川大学、山口大学、東京経済大学、早稲田大学、追手門学院大学、神戸大学、名古屋大学、愛知淑徳大学、関東学院大学、ベトナム国家大学、インドネシア科学院研究員。

○近年の学位論文一覧(一部)

【卒業論文】

「インドネシア人技能実習生がみた日本——「収まり」と「はみ出し」の狭間で」
「関東でラーメン屋台を営む人の変遷と実態——「持たざる者」から「持つ者」へ」
「スクリーンの先の彼ら、スクリーンの中の世界—— Coppola とスコセッシの映画作品がイタリア系アメリカ人として描き出すことについて」
「血液を抜かれ、提供するとはどういうことか——血液事業関係者および若年層献血対象者の視点から」
「美瑛の丘をめぐる表象と景観変遷——写真家の役割を中心に」
「新語の普及による対人関係の意味付け——「蛙化現象」の事例を通して」

【修士論文】

「アントレプレナーシップの在地性——日本のスタートアップ企業にみる「不確実性」との向き合い方」
「韓国代案学校の人類学的研究——教師と生徒による語りを事例に」
「「合唱すること」、歌い続けること——アマチュア合唱団でのオートエスノグラフィーから」
「FGM/Cの変容と女性のエンパワーメント——ケニア・メル地域のFGM/Cに関する人類学的儀礼研究」
「異文化料理のイメージ化と〈空間〉創出——長崎・卓袱料理を例に」

【博士論文】

「営農する日系人の民族誌——現代ブラジル都市近郊農村における「果樹との対話」の根源」
「Evoking Moral Economy through Crafted Eloquence: Anthropological Study on the Market Narrative of the Northern Region of Er Lake, Southwest of China」
「ネパール、グルン社会における社会関係と「共にいること」をめぐる民族誌的研究」
「モンゴル西部牧畜地域における「出会い」の技法に関する人類学的研究」



「卒業論文のゼミ(ハイブリッド形態)風景」

多様な社会に切り込む学問 多様な生活に寄り添う学問

少子高齢化、情報化、国際化、個人化がすすむ現代社会において、多様な人々の生活とその基盤となる社会を理解し、支援する社会福祉制度・政策や方法・技術の重要性が認識されています。誰もが住み慣れた地域で安心して暮らしていける共生社会の構築が、今、求められています。社会福祉学は、子育て、介護、貧困、格差、孤立など現代社会がかかえる多様な生活課題を社会的な文脈のなかでとらえ、これらを解決する国や地方自治体による制度・政策をはじめ、NPOなどの多様なサービス提供組織の仕組みを創ります。また、子ども、高齢者、障がい者、女性、外国籍の方などの生活ニーズをもつ人々や、彼らを支える家族や地域へのソーシャルワーカーによる支援の方法や技術の習得をめざします。本学の社会福祉学分野では、社会福祉士国家試験の受験資格の取得にとどまらない深い洞察力、実践力、創造性、国際性を養うことができるよう、少人数教育を生かした授業を提供しています。

大学院では、さらに専門的かつ人文・社会科学の学際的な観点から社会福祉学の理論的、実証的な研究方法の習得を図り、今日的な社会福祉の諸問題に切り込む高度な専門知識と技能を身につけた研究・教育者および実務家の養成を行います。

○所属教員

坏 洋一 [教授]

Prof. AKUTSU, Yoichi
福祉理論 社会政策論

阿部 彩 [教授]

Prof. ABE, Aya
貧困・格差論 社会保障論

矢嶋 里絵 [教授]

Prof. YAJIMA, Rie
社会保障法 障害者福祉法

和気 純子 [教授]

Prof. WAKE, Junko
高齢者福祉論 ソーシャルワーク論 国際社会福祉比較

堀江 孝司 [教授]

Prof. HORIE, Takashi
社会政策論 福祉国家論

石島 健太郎 [准教授]

Associate Prof. ISHIJIMA, Kentaro
障害学 福祉社会学

長沼 葉月 [准教授]

Associate Prof. NAGANUMA, Hazuki
ソーシャルワーク技法 精神保健学 児童・思春期ケースワーク 家族支援

室田 信一 [准教授]

Associate Prof. MUROTA, Shin'ichi
地域福祉論 ソーシャルワーク論

根岸 弓 [助教]

Assistant Prof. NEGISHI, Yumi
児童家庭福祉論 国際比較研究

○取得できる学位・資格 各資格には必要科目の単位取得が必要です。

学士(社会福祉学)、修士(社会福祉学)、博士(社会福祉学)、社会福祉士国家試験受験資格、社会福祉主事任用資格、児童指導員任用資格、認定社会調査士

○近年の卒業生の進路・就職先(一部)

【学部卒業生】

公務員:厚生労働省、国土交通省、東京都、福井県、八王子市、国立市、調布市、相模原市、横浜市、川崎市、千葉市

民間企業:広英社、京王不動産、日本マスタートラスト信託銀行、ベネッセスタイルケア、SONPOケア、BuySell Technologies、三栄建築設計、アインホールディングス、KDDI、ゆうちょ銀行、NTT、富士通、東日本高速道路、ヤクルト、東京海上火災、ソフトバンク、横浜銀行、NHK

大学院進学:東京都立大学大学院人文科学研究科

【大学院修了生】(就職先)

法政大学、お茶の水女子大学、明治学院大学、武蔵野大学、立正大学、長野県庁、全国社会福祉協議会

○近年の学位論文一覧(一部)

【卒業論文】

「認知症ケアを行う介護職員の感情労働とそれに関連する要因について」

「インクルーシブ教育から考える日本の障害者教育」

「里親制度における民間フォスターリング機関等の支援実態について」

「生活保護ケースワークにおける利用者評価の必要性」

「高等学校における性的マイノリティの制服変更の受け入れについて」

「食品企業からみたフードバンクの持続可能性を高める要因の検討—平成21年度農林水産省調査と比較して—」

【修士論文】

「日中韓における金銭的な子育て支援策についての比較研究—モデルファミリーアプローチを用いて—」

「夜間保育所における支援課題～昼間保育所との比較を通じて～」

「聞こえない子供の手話獲得を保障する場の形成についての研究～明晴学園とこめっこの事例を通じて～」

「こども食堂の利用者の特性—子どもの生活実態調査を用いた実証研究—」

「子どもの最低限度の生活に対する市民の意識について—「合意基準アプローチ」をもとに—」

「中国における非正規雇用の現状、問題点および非正規雇用政策の変遷についての研究」

【博士論文】

「医療福祉生活協同組合におけるコ・プロダクションの実践—組合員参加のプロセスと参加を促進する専門職の働きかけ—」

「刑事司法システムの対象となった高齢者への包括的支援に関する一考察—地域生活支援の実態と課題から—」

「貧困家庭の不登校の実態に関する実証研究」



心のはたらきを実証的に探求する

心理学教室は、学部2年次からの専門教育を行っています。大学院の博士前期課程では、心理学分野と臨床心理学分野に分かれ、博士後期課程では、ふたたびすべての心理学領域がひとつの心理学分野として統一されます。現代の心理学における重要なテーマは、「人間がどのように生き、社会の中でどのような関わりをもちながら環境に適応するのか」ということです。私たち心理学教室では、このテーマに基づく様々な課題について、実験、観察、調査、検査、面接といった実証的手法を使用し、心のはたらきや行動の仕組み、経験や関係の意味、社会文化に関する理解を深めるための研究・教育を行っています。教員の専門領域は、実験心理学、認知心理学、社会心理学、発達心理学、計量心理学、臨床心理学をカバーしており、多角的に研究が進められています。それぞれの領域における研究はゼミを単位として進められますが、たがいに影響しあうことでよりすすんだ、そして統合的な理解に近づこうとしています。意識したところについての研究もあれば、非意識的な経験をも含めた行動の研究、あるいは生理的指標にもとづく研究もあります。観察しうる事実としての行動もあれば、思いに支えられた心的活動なども研究の対象です。このように心理学分野では多様なアプローチを通して人間の心理について考える機会が得られます。

○所属教員

下川 昭夫 [教授]

Prof. SHIMOKAWA, Akio
臨床心理学。コミュニティ臨床、学校場面での児童生徒への支援

沼崎 誠 [教授]

Prof. NUMAZAKI, Makoto
実験社会心理学。社会的自己、偏見とステレオタイプの研究

石原 正規 [教授]

Prof. ISHIHARA, Masami
実験心理学。人間の知覚・運動系情報処理の機能的特徴を探る研究

酒井 厚 [教授]

Prof. SAKAI, Atsushi
発達心理学、对人的信頼感、仲間・友人関係に関する研究

井上 和哉 [准教授]

Associate Prof. INOUE, Kazuya
認知心理学、感情心理学、注意、記憶、意思決定

勝又 陽太郎 [准教授]

Associate Prof. KATSUMATA, Yotaro
臨床心理学、地域精神保健、自殺予防

登藤 直弥 [准教授]

Associate Prof. TODO, Naoya
教育測定学、心理統計学、統計学

天野 陽一 [助教]

Assistant Prof. AMANO, Yoichi
社会心理学、発達心理学。親密な対人関係と利他行動

大瀧 玲子 [助教]

Assistant Prof. OTAKI, Reiko
家族療法、障がい者のきょうだい・家族支援、離婚家庭支援

(※博士前期課程のみ)



心の問題を支援する力を学ぶ

博士前期課程の臨床心理学分野は臨床心理士の第2種指定大学院になっています。また公認心理師は学部で必要な科目が取得できていれば、修了後受験資格が得られます。下記の所属教員が主に講義や演習、実習を担当しています。他に非常勤講師や心理学分野の先生方からも様々な講義が提供されています。学部の出身分野によっては公認心理師受験資格の必要な学部科目が取得できていない場合もあるので、臨床心理士受験資格だけ取得することも可能です。両方取得しようとするとそのぶん講義や実習が増えます。例えば病院実習では様々な心の問題や病院心理職の専門性について学びます。学校実習は地域支援としての意味もあり、子どもたちの毎日の学校生活に寄り添う形で1年間、その課題や支援について考えてゆきます。司法実習では少年鑑別所に見学に行きます。また学内実習では実際にケースを担当し、カンファレンスでは博士後期課程の院生および教員が出席し、様々な角度から検討を行っています。このように実践づけの毎日ですが実証研究も重視しています。臨床現場で起こっていることを記録し、見立てをたて、アプローチしてゆく心理臨床の活動は、まさに仮説を検証してゆく実証研究そのものです。研究テーマは院生それぞれの意思を尊重しますが、研究者の自覚を持ち、ユニークな視点で自主的に臨床研究に取り組んでいただきたいと思っています。博士課程は一貫制ではないので前期だけで修了することも可能ですし、若干名ですが試験を受け後期課程に進学も出来ます。博士後期課程の指導は主に下川昭夫教授と勝又陽太郎准教授が担当します。博士後期課程は心理学分野に統合されているため、心理学の研究者として心理臨床的な視点で研究に取り組んでいくことになります。

○所属教員

下川 昭夫 [教授]

Prof. SHIMOKAWA, Akio

臨床心理学。コミュニティ臨床、学校場面での児童生徒への支援

松岡 努 [准教授]

Associate Prof. MATSUOKA, Tsutomu

臨床心理学、心理療法、心理アセスメント

駒屋 雄高 [准教授]

Associate Prof. KOMAYA, Yutaka

地域支援、摂食障害への心理療法、ロールシャッパ法

勝又 陽太郎 [准教授]

Associate Prof. KATSUMATA, Yotaro

臨床心理学、地域精神保健、自殺予防

田中 里実 [准教授]

Associate Prof. TANAKA, Satomi

発達臨床、臨床心理学

大瀧 玲子 [助教]

Assistant Prof. OTAKI, Reiko

家族療法、障がい者のきょうだい・家族支援、離婚家庭支援

心理学 / 臨床心理学

Psychology Clinical Psychology

○取得できる学位・資格

各資格には必要科目(例:教員免許は教職科目)の単位取得が必要です。

心理学

- 学士(心理学)、修士(心理学)、博士(心理学) ●教員免許 学部:中学校一種(社会)、高等学校一種(公民)博士前期課程:中学校専修(社会)、高等学校専修(公民)。
- 公認心理師、学部で必要な受験資格が得られる。
- その他、学芸員、社会教育主事、認定心理士、児童指導員の任用資格、家庭裁判所調査官、児童施設で働く児童厚生員、養護施設などの職員の受験資格など。

臨床心理学

- 修士(心理学) ●臨床心理士、ただし受験資格取得には修了後1年以上の臨床経験が必要。 ●公認心理師、修士修了後すぐに受験資格の取得が可能。
 - 中学校教諭専修免許/社会、高等学校教諭専修免許/公民。
- ※公認心理師の実習には、学費とは別に実習費用がかかる場合があります。

○近年の卒業生の進路・就職先(一部)

心理学

- 大学院進学(東京都立大学大学院、名古屋大学大学院など) ●公務員(科学警察研究所(警察庁)、東京都庁、日野市役所、東京都公立中高教員など) ●一般企業(三井住友銀行、高島屋、キングジム、日本生活協同組合連合会など)

臨床心理学

- 大学院進学(東京都立大学大学院) ●公務員(法務省法務技官(心理)、家庭裁判所調査官、児童相談所心理職、教育相談室・子ども家庭支援センターなど)
- その他(児童養護施設心理士、病院心理士、スクールカウンセラーなどの非常勤)

○近年の学位論文一覧(一部)

心理学

【卒業論文】

「物語における気分一致記憶の検討」/「コミュニケーション様式が実験参加に対する意欲に与える影響」/「恋人プライムは女性の食事量を減らすか?」/「異年齢保育における社会性の発達についての検討」/「就職活動期における大学生の気分の落ち込みについて」/「大学生のLINEの利用実態と依存・効用認知に関する研究」など

【修士論文】

「発達の視点を背景にした専門的スキル研究の試み—ケーキナップ場面の観察から—」/「情動表情の知覚が直後のパフォーマンスに及ぼす影響」/「身体的温かさと性格的温かさの相互作用—自己・他者の評定順序および性役割観の効果を含めた検証—」

【博士論文】

「動画像の知覚・認識に関する実験心理学的研究」/「受け手に合わせたメッセージ作成と心の理論の使用」など

臨床心理学

【修士論文】

「児童養護施設と学校の連携～児童養護施設職員と学校教員が連携して児童を支えるために～」/「学校における情緒的支援の可能性についての一考察—学習支援で何ができるか—」/「上司の職場復帰支援に関する探索的研究—コミュニケーション不全への支援的アプローチの重要性—」/「Chumship体験と両親の養育態度と現代青年の交友関係に与える影響」/「青年期女子の母子関係の認識となりたい親像について」など

【博士論文】

「青年期以降のクライアントとの心理療法におけるアタッチメントの活用に関する研究」/「養育不調が生じた家族への心理的支援の検討—児童養護施設における心理士による家族支援の意義」/「専門的援助の届きにくい子どもへの心理支援の検討—BIFを伴う子どもへの支援から—」

留学

Study abroad

本学が交流協定を結んで留学生の派遣や受け入れを実施している大学のうち、特に人文・社会系との縁の深い大学を紹介します。このほかにも多くの大学への留学が可能です。大学案内冊子や国際センターのホームページをごらんください。

東京都立大学国際センター公式サイト >> <https://www.ic.tmu.ac.jp/>

○ウィーン大学(オーストリア)

ウィーン大学(1365年創立)は、現在のドイツ語圏にある大学では最古の伝統を誇る大学です。ウィーン大学と本学との間には交換留学制度があり、すでに10年以上にわたって、それぞれの大学から毎年ほぼ3人の学生が相手の大学に、1年間留学しています。留学生にはお互いの大学で、一人一人にチューターがつき、初めは慣れない外国での生活の面倒をみてくれます。ウィーン大学の伝統ある質の高い講義を聴講したり、現地の学生とのゼミでの討議を経験することもできますし、世紀末ウィーンにまつわる華やかな文化の香りを楽しみ、諸外国へ容易にでかけることができるという立地条件を活かして、周辺のさまざまな国を見て回ることもできます。



ウィーン大学公式サイト >> <https://www.univie.ac.at/>

○レンヌ第2大学(フランス)

レンヌはパリからTGVで2時間ほどのところにある、ブルターニュ地方の中心都市で、世界遺産として有名な観光地モン・サン・ミッシェルにはバスで1時間ほどです。レンヌ第2大学はレンヌ大学(1735年設立)から第1・第2に分割される形で1969年に設立された国立大学で、起源をたどると、フランソワ2世が1460年に設立したブルターニュ大学以来の歴史を有します。

東京都立大学との交換留学協定が締結され、2014年秋から交換が開始されました。年間約5名の学生が派遣され、日本語を学んでいるフランス人学生約5名も本学で勉強します。



レンヌ第2大学公式サイト >> <https://www.univ-rennes2.fr/>

○華南理工大学(中国) / ○国立台湾師範大学(台湾)

中国沿海部の一大都市広州は、温暖な気候で、「食は広州にあり」の言葉通りのおいしい食べ物に恵まれた街です。市の北部に位置した白雲空港から地下鉄を乗り継いで一時間ほどの所に華南理工大学はあります。本学の学生は、同大学の国際教育学院に受け入れられ、半年または一年の中国語の授業を受けることができます。

松山空港から地下鉄(MRT)で30分弱、多くの庶民的なレストランが軒を連ねる街の中に台湾師範大学は位置しています。1946年に、設立された台湾省立師範学院をその前身とします。本学からは半年または一年の交換留学の他、2016年春からは2月～3月に同大学の国語教学センターで開催される3週間の語学研修にも学生を派遣しています。

本学ではこの他にも吉林大学、首都師範大学(以上中国)、天主教輔仁大学、中国文化大学(以上台湾)などの大学と交流協定を結んでいます。

華南理工大学公式サイト >> <https://www.scut.edu.cn/> 国立台湾師範大学公式サイト >> <https://www.ntnu.edu.tw/>

教育学

人間社会学科／人間科学専攻



教育の未来をひらく

教育学分野とは、人間の成長に関わる諸科学をカバーし、統合しうる可能性のある教育学研究の場です。本研究室では現在、教育学研究最前線で活躍するスタッフが、自らの専門的研究を深め、その成果を授業に反映させ、それと同時に、研究室全体でよりよい学習研究環境・教育成果を作り上げようと日々励んでいます。

現在、授業担当の専任教員が専門とする領域は、教育政策・制度、教育哲学、思春期・青年期の問題と学校(中等教育)と社会(労働)の接続、多文化教育、社会教育、障害児を対象とする発達と教育、および幼児教育です。

専任教員ではカバーできない領域に関しては非常勤講師を依頼していますが、人選については教員・学生・院生三者で構成される三者懇談会の場で、その他研究室運営上の問題と一緒に話し合うという特徴があります。

学部では、必修とされる科目が比較的少なく自由度が高いですが、集大成としての卒業論文は必修であり、最後のハードルは高く設定してあります。したがって、問題意識を持ち、自立した学習者になることが求められます。

大学院博士前期課程では、教育に関わる高度な専門職に従事するのに必要な研究能力と、その基礎となる学識を養うことを目指しています。また、博士後期課程では、広い視野に立って専門分野の研究および高度の専門性を要する職業に必要とされる能力を形成することを目指しています。博士後期課程では、博士前期課程での研究を、学位取得に向けてさらに磨き上げていきます。

○所属教員

荒井 文昭 [教授]

Prof. ARAI, Fumiaki
教育行政学・教育政治研究

金 侖貞 [教授]

Prof. KIM, Yunjeong
社会教育、生涯学習、日韓比較研究

野元 弘幸 [教授]

Prof. NOMOTO, Hiroyuki
社会教育、生涯学習、多文化・多民族教育

河合 隆平 [准教授]

Associate Prof. KAWAI, Ryuhei
障害者教育学・教育史、重症児教育

杉田 真衣 [准教授]

Associate Prof. SUGITA, Mai
ジェンダー／セクシュアリティと教育、青年論

竹原 幸太 [准教授]

Associate Prof. TAKEHARA, Kota
教育哲学、教育の修復的正義論、矯正教育

田中 浩司 [准教授]

Associate Prof. TANAKA, Koji
発達心理学、幼児教育

ハスゲレル [助教]

Assistant Prof. HASGEREL
多文化・多言語教育、中国少数民族教育(モンゴル民族)

松下 丈宏 [助教]

Assistant Prof. MATSUSHITA, Takehiro
教育行政学

○取得できる学位・資格

各資格には必要科目(例:教員免許は教職科目)の単位取得が必要です。

学士(教育学):教育学分野の卒業を要件として取得できます。/修士(教育学)、博士(教育学)
 教員免許 学部:中学校一種(社会)、高等学校一種(公民)
 博士前期課程:中学校専修(社会)、高等学校専修(公民)
 社会教育主事任用資格(社会教育士)

○近年の卒業生の進路・就職先(一部)

【学部卒業生】

【企業】JTBC、NEC、時事通信社、ベネッセ、近畿日本ツーリスト、日本出版販売、古河電気工業、みずほ銀行、内田洋行、KDDI、大和証券など

【官公庁】世田谷区役所、横浜市役所、相模原市役所、秋田県庁、東京都庁、厚生労働省、人事院、内閣府など

【教員】東京都、神奈川県、愛知県など

【大学院】東京都立大学大学院、東京大学大学院など

【大学院修了生】

大月市役所、南房総市役所、ニチレイ、ヤマノプロテック、City Lights Asia、王立ブノンペン大学、ソーシャルビジネス起業、東京都立大学大学院博士後期課程進学など

○近年の学位論文一覧(一部)

【卒業論文】

「外見的差異を持つ複数ルーツの人々に無自覚に向けられる偏ったまなざしと当事者の主体的なアイデンティティ形成—アフリカー日本ルーツの人々に着目して」

「低学力の生徒が抱える困難とその支援の在り方」

「福島第一原子力発電所事故の母子避難による母親の不安と葛藤」

「家族システム理論の観点からとらえる父親と息子の葛藤」

「長田新の教育学における「錬成」論——戦時下教育学と国民学校論」

「保育所給食における食物アレルギー児への対応における連携の様相」

「見えない存在にされた「私」と「わたしたち」を可視化する——首都圏に住むアイヌをルーツに持つ若者のアイヌとの向き合い方」

【修士論文】

「東日本大震災から見る地域コミュニティの重要性と防災学習の役割—岩手県大船渡市赤崎町赤崎地区の事例を中心に—」

「中国における少数民族の文化伝承と学校教育—伝統文化の体操化を手掛かりとして」

「『社会教育による広報』実践の自由とその保障」

「年長クラスにおける保護者による「劇づくり」の援助プロセス—M-GTAを用いたインタビューデータの分析」

「現代におけるアイヌ民族の「学び」の構造——対話的構築主義に基づくアイヌ女性のライフストーリー分析を通して」

【博士論文】

「巡回相談による保育士園に関する研究—保育者の支援ニーズと概念変容プロセスの分析」

「非対称のまなざしを対称化に導く多文化共生の実践としての日本語教育」

「不可視化された低層孤立者の経験と〈若者支援〉」

「発達障害児を育てる母親のしなやかな覚悟の物語—日常生活で紡がれる物語を探求する質的研究」

「生活保護世帯の若者の学校生活と将来展望」

教室(研究室)のHPアドレス >> <https://tmu-edu.com/index.html>



私たちはいつから日本語を話せるようになったんだっけ

「ことばを科学的に分析すること」を目標としています。

- 赤ちゃんは自然に言葉話すようになるのに、大人になるとなぜ言語の習得が難しいのでしょうか。
- 外国語は早く習い始めた方がよいのでしょうか。
- 日本語は英語やドイツ語やフランス語と、どこが違うのでしょうか。
- トリとヒトにはある共通点があります。それは何でしょう。

言語科学教室では、これらの質問に答えようと、ことばの「音」、「語彙」、「文法」、「意味」について、「脳の構造と機能」、「生物科学」という視点から探っています。言語の様々な分析法、調査、観察、脳の計測法などの基礎知識を身につけるために、様々な講義、ゼミ、実習科目を開講しています。

○所属教員

本間 猛 [教授]

Prof. HONMA, Takeru
理論言語学、音韻理論

原田 なをみ [教授]

Prof. HARADA, Naomi
理論言語学、比較統語論

保前 文高 [教授]

Prof. HOMAE, Fumitaka
認知神経科学、発達脳科学

橋本 龍一郎 [教授]

Prof. HASHIMOTO, Ryuichiro
言語・社会脳科学、臨床神経科学

矢野 雅貴 [准教授]

Associate Prof. YANO, Masataka
心理言語学、神経言語学

洵野 裕 [助教]

Assistant Prof. FUCHINO, Yutaka
神経科学、発達科学

○取得できる学位・資格

各資格には必要科目(例:教員免許は教職科目)の単位取得が必要です。

学士(言語学)、修士(言語学)、博士(言語学)

大学院:教員免許(高校専修/英語、中学専修/英語)

○近年の卒業生の進路・就職先(一部)

大学院進学、海外留学、研究機関、外資系企業、出版社、IT企業のシステムエンジニア、言語療法士、学習支援コーディネータ、ライフサイエンス系コーディネータ、通訳など

一般職:NTTコムウェア、Springer-Verlag、桐原書店、大修館書店、等

専門職:国立身体障害者リハビリテーションセンター、言語聴覚士養成課程、教員、初台リハビリテーション病院
言語聴覚科、言語聴覚士、等

研究職:(独)情報通信研究機構未来ITC研究センター脳情報プロジェクト研究員、(独)科学技術振興機構バイオサイエンスデータベースセンター研究員、神田外国語大学言語科学研究センター研究員、等

○近年の学位論文一覧(一部)

【卒業論文】

- 日本語オノマトペの理解過程に関する脳波研究
- リーディングスパン課題の遅延聴覚フィードバックへの干渉効果に基づく発話制御機構の考察
- 日本語と韓国語の処格と与格の助詞の意味比較

【修士論文】

- The effect of speech motor command on lexical processes in word production
- Effect of transcranial direct current stimulation to language-related regions on speech fluency under delayed auditory feedback
- The implicit checking of lexical relation between verbs and objects in the processing of case information: An ERP study

【博士論文】

- Effects of grammatical and semantic categories on lexical processing of single words: Behavioral and electrophysiological Investigation
- An event-related brain potential study of English morphosyntactic processing in Japanese learners of English
- The logical problem of loanword adaptation and hidden phonology

教室(研究室)のHPアドレス >> <https://gengokagaku.fpark.tmu.ac.jp/>

日本語教育学

人間社会科学／人間科学専攻



日本語の過去・現在・未来……日本語を使うのは日本人だけではない

日本語教育学では日本語の成り立ちや音韻・文法、習得過程、社会や心理と言語とのかかわりを基礎から学ぶ科目を用意しています。また、さまざまな選択科目があり、日本語と日本語教育にかかわり、言語力を高めるさまざまな内容の履修をすることができます。こうした科目での研鑽を積んだ上で、教育への応用や、研究に結びつけていきます。

日本語を使うのはもはや日本人だけではありません。伝統的な日本文化、ポップカルチャーやソフトパワーを支えるものとして世界中の人々が日本語に興味を持っています。

○所属教員

浅川 哲也 [教授]

Prof. ASAKAWA, Tetsuya

日本語学・日本語史が専門です。現代日本語の音韻・文法・語彙についての歴史的な研究をしています。各種のコーパスを利用して、ら抜き言葉・れ足す言葉・れる言葉・ら入れ言葉・形容詞い足す言葉など、現代日本語の先端的な変化の動向について実証的な研究をしています。

奥野 由紀子 [教授]

Prof. OKUNO, Yukiko

第二言語習得研究を専門としています。学習者の変化する中間言語体系と、習得の要因を探っています。コミュニケーションのための日本語教育研究、教材開発にも関心があります。ありのままの学習者のことばを丹念に見たいという方を歓迎します。

神田 明延 [教授]

Prof. KANDA, Akinobu

専門は英語教育で、主にe-LearningやCALLなどの教育実践方法についての研究をしています。授業では日英語比較の観点から、日本文化を国際語としての英語で説明することを学びます。

長谷川 守寿 [教授]

Prof. HASEGAWA, Morihisa

新聞や小説などのテキストデータを利用した現代日本語研究(特に文法)や、日本語教材開発(特にコロケーションを中心とした語彙教材)を行っています。テキストデータを通して日本語を研究してみたい人を歓迎します。

松田 真希子 [教授]

Prof. MATSUDA, Makiko

応用言語学の研究をしています。具体的には“日本”を含む言語的文化的多様性に関する研究、日系移民など移動する人の言語文化教育研究などです。ことばによって/ことばから自由になるための研究に興味がある学生を歓迎します。

ダニエル・ロング [教授]

Prof. LONG, Daniel

社会言語学、言語接触、第二言語習得の研究を行っています。今、小笠原諸島というフィールドでの言語研究にも力を入れています。

劉 永亮 [助教]

Assistant Prof. LIU, YongLiang

日本語学習者の音声上の問題を第二言語習得の視点から研究しています。また、非漢字圏の学習者における漢字の指導にも関心を持っています。そして、助教として日本語教育学教室全体の運営がスムーズに行われるように心がけ、教員と学生の懸け橋になれるように頑張っています。

○取得できる学位・資格

各資格には必要科目(例:教員免許は教職科目)の単位取得が必要です。

学士(日本語教育学)、修士(日本語教育学)、博士(日本語教育学)

教員免許 学部:中学校一種(国語)、高等学校一種(国語)

博士前期課程:中学校専修(国語)、高等学校専修(国語)

○近年の卒業生の進路・就職先(一部)

(学部卒)地方公務員、出版社、大学院進学、語学助手としてアメリカの大学へ赴任など

(大学院卒)国内・海外の大学などの高等教育機関教員、政府機関やNPO / NGOでの専門家、日系および多国籍企業での総合職など。

○近年の学位論文一覧(一部)

【卒業論文】

『和歌山方言話者における方言使用回避について—10代から20代を中心に—』

『当為表現の変異と習得—脱落形および日本語学習者の使用実態に目を向けて—』

『中級日本語学習者の雑談における話題転換—話題に対する自信に着目して—』

【修士論文】

『多地点を接続した遠隔グループ授業の実態分析—学習者の発話、調整行動および心理的影響を中心に—』

『在日スペイン語母語話者の中間言語に現れるコミュニケーション上の問題となる表現とその要因—意味領域における母語干渉を中心に—』

『日本語と中国語の意味形容詞の対照研究—五味を対象に—』

『中国語を母語とする日本語学習者による機能動詞結合の習得について』

【博士論文】

『モンゴル語母語話者における日本語促音の習得に関する研究—モンゴル語と北京語のバイリンガル・北京語モノリンガル・日本語母語話者の異同—』

『日本語教育のためのテイナイ形習得研究』

『日本語と韓国語の授受表現に関する対照研究—小説における授受表現の用例についての考察を中心に—』

『日本語学習者に対するスピーチスタイル教育に向けた実態研究』

『現代日本語の類義関係にある副詞に関する計量的研究』

『専門日本語教育にピア・ラーニングを用いる研究—大学院の日本語教育学専攻における四年間の実践研究を通して—』



西洋哲学・文学・宗教の始原から、現代哲学の最新の到達点まで 自由に思考し、世界と他者を理解し、理解されるためのスキルを磨く

現代の私たちは、日々、膨大で錯綜した情報にさらされ、未経験の事象や出来事に会い、あまりに異質で理解不能に思える他者の価値観に直面させられます。私たちが世界と他者を根底的に、また包括的に理解するためには、また、理解されるためには、どのような思考、解釈、表現、実践のスキルとスタイルを持つべきでしょうか。哲学教室で学ぶ学問、西洋哲学と西洋古典学は、この問いに有力な示唆を与えてくれます。古代西洋に遡るその始まり以来、20数世紀を経て現代に至るまで、西洋哲学・思想・文学・宗教は、世界と他者の根底的理解の可能性を鋭く探究し、豊富な洞察を積み重ねてきたからです。

「西洋哲学」では、(1) 古代ギリシアから、中世、近世、近代の英・仏・独の哲学、そして現代哲学の諸潮流（現象学、実存主義から大陸哲学に至る流れ、英米に発しつつ国際化している分析哲学など）まで、(2) また分野で言えば、形而上学・認識論・倫理学・宗教哲学から、言語哲学・論理学・科学哲学といった多様な領域にわたり、各自の興味のまま自由に、深く学び、思索します。「西洋古典学」では、長らく西洋の文学と文化全般の基礎にして模範となった古代ギリシア文学・古代ラテン文学を、原語原典をひもときながら厳格に、しかし興味深く学んでいきます。

原典を綿密に読みこなし、著者の真意を掘り下げて理解して明快な日本語の論証に再構成する能力は、現代社会に真に必要なとされるスキルと言えるでしょう。

○所属教員

木田 直人 [教授]

Prof. KIDA, Naoto
フランス哲学

栗原 裕次 [教授]

Prof. KURIHARA, Yuji
西洋古代哲学・倫理学

松阪 陽一 [教授]

Prof. MATSUSAKA, Youichi
言語哲学

増山 浩人 [准教授]

Associate Prof. MASUYAMA, Hiroto
ドイツ近現代哲学

井原 健一郎 [助教]

Assistant Prof. IHARA, Ken'ichiro
フランス哲学

小池 登 [教授]

Prof. KOIKE, Noboru
ギリシア語学・文学

吉田 俊一郎 [准教授]

Associate Prof. YOSHIDA, Shunichiro
ラテン語学・文学

○取得できる学位・資格

各資格には必要科目(例:教員免許は教職科目)の単位取得が必要です。

学士(文学)、修士(文学)、博士(文学)

教員免許 学部:中学校一種(社会)、高等学校一種(公民)

博士前期課程:中学校専修(社会)、高等学校専修(公民)

○近年の卒業生の進路・就職先(一部)

【学部卒業生】

自治体関係:埼玉県庁、横浜市役所、入間市役所

民間企業:NTTドコモ、エレコム、太平電業、シアーズ、北越紀州製紙、スタッフサポート、臨海セミナー、駒沢学園

大学院進学:東京大学、一橋大学、東京都立大学、専修大学

【大学院修了生】

京都大学(准教授)、群馬県立女子大学(専任講師)、神戸大学(特任助教)、東京都立大学(特任助教)、東京都立大学(非常勤講師)、学習院大学(非常勤講師)、東京海洋大学(非常勤講師)、成城大学(非常勤講師)、東京都立大学オーブンユニバーシティ(講師)、東京工業大学(非常勤講師)、東京都立大学(職員)、みずほ総研

○近年の学位論文一覧(一部)

〈哲学〉

【卒業論文】

ルソーの「子ども」観と教育論、現代におけるその意義

空な名前を含む否定的存在言明について—クリプキとドネランの分析の批判的検討—

アリストテレス『ニコマコス倫理学』における快樂と幸福の関係について

ヤコービの哲学について、経験論と実在論から

ショーペンハウアーの哲学における和声、旋律、基音—音楽の意志との関係性について—

対話という行為の善—プラトン『コルギアス』における対話の探究—

【修士論文】

アダム・スミスにおける想像力について—党派性問題をめぐって—

帰属的用法再考

古典論理の理解の観点に関する一考察

【博士論文】

命題と証明の概念の哲学的基礎—多様な論理体系とその様相的埋め込みを手がかりに—

〈古典〉

【卒業論文】

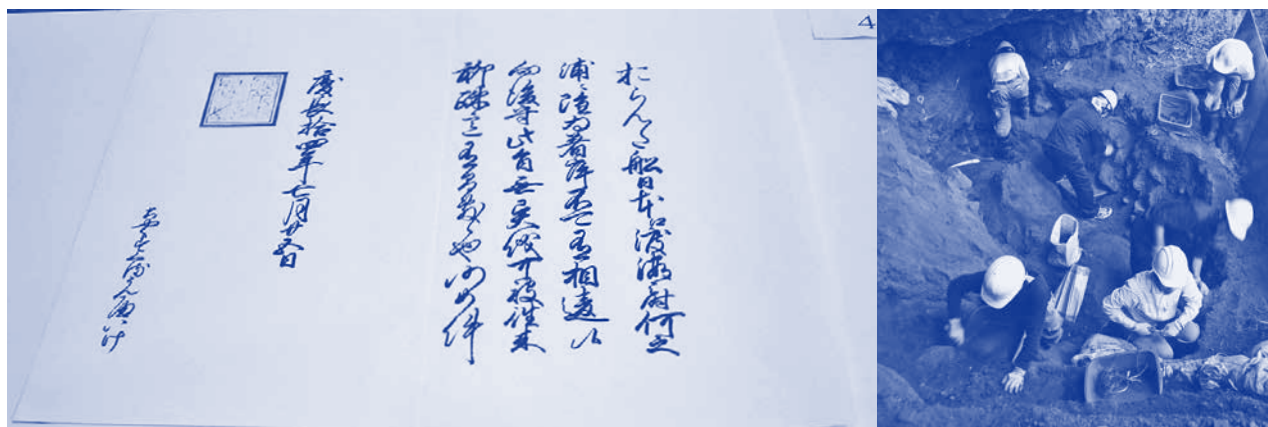
『アガメムノン』258行～354行で示されるクリュタイメーストラの反骨心と説得力

【修士論文】

マルティアーリス「エピグランマタ」における「ローマ」の意味

歴史学・考古学

人文学科／文化基礎論専攻



4次元の魅力！ 人間の生き方を考える学問 さあ開こう、歴史学・考古学の世界を！

歴史学・考古学分野では、日本史・アジア史(東洋史)・西洋史・考古学の各領域で教育と研究が進められています。もちろん各領域の専門性を重視していますが、同時に人類史・世界史の立場から、過去の人々の生活の営みを総合的に把握することを目標としています。学生諸君は、なるべく広い視野で歴史学・考古学を分析する目を養いながら、個別の講義・演習・実習を履修して各領域、時代などにそくした訓練を受け、最終的には卒業論文という形で、自分のテーマにそくした専門的研究を行うこととなります。また、教室での勉強だけでなく、調査、合宿など野外での活動も行われています。卒業生は、一般企業や公務員、教員として就職するほか、大学院進学者も多数います。

大学院は、さらに進んで自分の研究テーマを追究できる体制となっています。大学院博士前期(修士)課程では、講義・演習などの場での指導と、日常的に進める自主的な調査、研究によって修士論文をまとめていきます。さらに博士後期課程では、博士論文作成をめざして、講義・演習への参加や、学内外の学会・研究会等への参加を通じて、研究能力を磨いていきます。また、さまざまな研究分野とのフィールド調査を含む緊密な共同研究にも積極的に取り組んでいます。

○所属教員

中嶋 毅 [教授]

Prof. NAKASHIMA, Takeshi
ロシア近現代史、在外ロシア史

源川 真希 [教授]

Prof. MINAGAWA, Masaki
日本現代史、東京研究

國 雄行 [教授]

Prof. KUNI, Takeyuki
日本近代史

山田 康弘 [教授]

Prof. YAMADA, Yasuhiro
先史学(縄文・弥生時代の社会)

鎌倉 佐保 [教授]

Prof. KAMAKURA, Saho
日本中世史

谷口 央 [教授]

Prof. TANIGUCHI, Hisashi
日本近世史

前田 弘毅 [教授]

Prof. MAEDA, Hirotake
中東・イスラーム史、ユーラシア研究

福士 由紀 [教授]

Prof. FUKUSHI, Yuki
中国近現代史

赤羽目 匡由 [教授]

Prof. AKABAME, Masayoshi
朝鮮古代史、東洋史

出穂 雅実 [准教授]

Associate Prof. IZUHO, Masami
考古学、ユーラシア旧石器時代研究

高橋 亮介 [准教授]

Associate Prof. TAKAHASHI, Ryosuke
西洋古代史

大貫 俊夫 [准教授]

Associate Prof. OHNUKI, Toshio
西洋中世史

池田 真歩 [准教授]

Associate Prof. IKEDA, Maho
日本近代史

岩瀬 彬 [助教]

Assistant Prof. IWASE, Akira
考古学

○取得できる学位・資格

各資格には必要科目(例:教員免許は教職科目)の単位取得が必要です。

学士(史学)、修士(史学)、博士(史学)、修士(考古学)、博士(考古学)

教員免許 学部:中学校一種(社会)、高等学校一種(地歴)

博士前期課程:中学校専修(社会)、高等学校専修(地歴)

学芸員

○近年の卒業生の進路・就職先(一部)

【企業】JTB、JR東日本、学研パブリッシング、大和証券、東京エフエム、東京海上日動火災保険、東芝、凸版印刷、日鐵住金建材、日本郵便、野村證券、白泉社、はとバス、三井住友建設、三菱総研DCS、楽天、りそな銀行

【官公庁】国税庁、航空自衛隊、横浜税関、東京都、神奈川県、葛飾区、北区、新宿区、稲城市、八王子市、横浜市、川崎市、綾瀬市、相模原市、藤沢市、川崎市

【教員】東京都、神奈川県、埼玉県

【大学院】東京都立大学、千葉大学、東京大学、東京学芸大学、一橋大学、龍谷大学

○近年の学位論文一覧(一部)

【卒業論文】

「源頼朝の奥州支配」

「日中国交正常化における中華人民共和国の戦後賠償放棄について」

「近代ロシアにおける出稼ぎと農民家族」

「千曲・信濃川流域における縄文・弥生時代の集落選地条件の比較」

【修士論文】

「幕末における条約派幕臣の政治動向」

「1917年ロシア革命期のテーレク州におけるムスリム知識人の民族運動に関する研究」

「第二次世界大戦末期のソヴィエト連邦による日本人捕虜抑留の準備過程」

「東北地方における後期旧石器時代の地質編年と行動論的石器分析の試み」

【博士論文】

「大坂の陣と近世武家社会」

「8～9世紀における渤海の中央権力と地方社会」

「中世末期トスカーナの都市における家内使用人」

「後期旧石器時代前半期における石器素材利用形態の研究」



好奇心は無限大 —君の切り口で時代を自由に読み解こう—

表象文化論分野は、芸術や文化の多様なテーマに幅広い視野から柔軟に対応できる研究・教育の場を目指しています。基本的な立場となるのは、イメージ論、視覚文化論、パフォーマンス・アーツ研究、音楽文化論、伝統芸能研究、言語芸術論などに取り組む芸術表象研究と、文化的事象を制度・権力・身体・メディアといった視座から検討する文化表象研究の二つです。20世紀半ば以後著しい発展を遂げた、文化・芸術にかかわる理論的探求の成果、すなわち現代思想、記号論、精神分析、ジェンダー論、カルチュラル・スタディーズ、批評理論、メディア論、図像学、映画理論などがもたらした方法論的成果を重視し、それを踏まえた上で、美術、映画、音楽、演劇、文学から、舞踊、広告、デザイン、ファッション、マンガ、テレビドラマ、ミュージカル、ゲーム、キャラクター、お笑いまでのあらゆるジャンルの作品、作家、運動などを研究対象として扱っていきます。こうして実現される学際的・領域横断的な研究・教育の場の特長を活かしながら、今日の多様化する文化・芸術の諸問題にも取り組もうとしています。

○所属教員

赤塚 若樹 [教授]

Prof. AKATSUKA, Wakagi
映像文化論・比較文学

越智 雄磨 [准教授]

Associate Prof. OCHI, Yuma
舞台芸術研究・身体論

亀澤 美由紀 [教授]

Prof. KAMEZAWA, Miyuki
ジェンダー論、英語圏文学・文化

長門 洋平 [准教授]

Associate Prof. NAGATO, Yohei
映画研究

福田 貴成 [教授]

Prof. FUKUTA, Takanari
聴覚文化論・音楽文化論

古永 真一 [准教授]

Associate Prof. FURUNAGA, Shin'ichi
現代思想、精神分析、イメージ／テキスト研究

高本 教之 [助教]

Assistant Prof. TAKAMOTO, Noriyuki
独文学、日本古典芸能、演劇文化

Studies of Culture and Representation

○取得できる学位・資格

各資格には必要科目(例:教員免許は教職科目)の単位取得が必要です。

【学位】

●学士課程:学士(文学) ●博士前期課程:修士(文学) ●博士後期課程:博士(文学)

【資格】

学芸員、社会教育主事など

○近年の卒業生の進路・就職先(一部)

【学部卒業生】

マスコミ・広告:NHK、電通

製造業:サッポロライオン、東芝機械、積水ハウス

鉄道・運輸:JR東日本

官公庁:文部科学省、東京都庁、江東区区役所、神奈川県庁、国立病院機構

サービス・小売:三越伊勢丹、マイナビ

教育・研究:東京都立大学事務局、一橋大学図書館、学習院大学図書館

金融・保険:東京海上日動火災保険、

大学院進学など。

住友生命、JCB

【大学院修了生】

広島県立美術館(学芸員)、アスキー・メディアワークス、東京都立大学事務局、新国立劇場、日本学術振興会など。

東京都立産業技術高等専門学校(教員)、東京芸術大学博士後期課程進学、東京大学博士後期課程進学

○近年の学位論文一覧(一部)

【卒業論文】

「〈変身〉というドレスアップ・メイクアップの表象——『海月姫』にみるジェンダー・トラブル」

「保守的な領域の再検討による新たな「女性」の創造——2020-2021秋冬 ディオール オートクチュール・コレクションムービーからの考察」

「歌うキャラクターボイスと聴衆——アニメソング、「キャラソン」を中心に」

「東京事変の作品における「テレビ」の表象——その構造と機能」

「『ヘルタースケルター』——高度消費社会で生き延びるサイボーグ的女性」

「劇団イキウメ論——SF演劇作品の物語構造分析」

「サブカルチャーの物語における多重人格キャラクターの機能と変遷」

「外傷的イメージ論——アンディ・ウォーホル『青い電気椅子』を中心に」

【修士論文】

「歌う声と政治——フォークゲリラにおける歌声を手がかりに」

「女性誌における男性を消費するまなざし」

「ブルトンのエクリチュール・オートマティック——意味するものの誕生へ」

「大江健三郎論——生まれ替わりと想像力の観点からみる大江健三郎の小説の方法」

「近代俳句史において俳句を「書く」という言い回しはいかにして創作行為そのものを表すようになったか」

【博士論文】

「『フランケンシュタイン』における自然、想像力、ヘルメス思想——作品にエソテリシズム思想を読む」

教室(研究室)のHPアドレス >> <https://hyosho.fpark.tmu.ac.jp/index.html>



書物の大海原に遊ぶ —日本神話からライトノベルまで

日本語学、古事記や万葉集、平安和歌や物語、江戸時代の文学、近代文学や現代文学を研究する専門スタッフが在籍し、現代日本語の統語論・意味論、古代の文字表現論、歌の系譜論、近世の小説史や文芸思潮、近代の小説と批評、思想文化などに関心を寄せています。学生は少人数のゼミ形式の授業でスタッフと議論しながら、日本語分析の方法、文献資料の扱い方、文学作品の読解や批評の方法などを学び、日本語学一般、古典から現代文学まで自由に自分の研究テーマを深めていくことができます。ことばに関心のある人、本を読むのが好きな人を歓迎します。

○所属教員

猪股 ときわ [教授]

Prof. INOMATA, Tokiwa

古代～中世あたりまでの歌や神話的言説をそれぞれの「時」と「場」の中でいかに捉えるかを研究課題としている。具体的には、東アジアの漢字文化との出会いによる「和歌」なるものの形成過程の解明、歌をうたい・よみ・書く行為がどのように宮廷文化(政治・思想・制度・世界観など)を構築していったか、古代宮廷文化の中で生成する神話的思考など。

大杉 重男 [教授]

Prof. OHSUGI, Shigeo

主に近現代の日本文学を研究している。文学を自明の前提として考えるのではなく、それがどのような制度性に支えられているかを、政治や文化状況との関連や、文学作品の言葉の内在的構造の中に見出すことに努めている。徳田秋声を中心とする自然主義文学の脱構築的読解、夏目漱石をめぐる神話的表象の批判的分析を進め、現在では文学言語の原理的探求、日本人をめぐる現代的表象の批判的分析などに研究対象を広げている。

大島 資生 [教授]

Prof. OSHIMA, Motoo

現代日本語を文法論的・意味論的見地から研究している。文の統語構造と、その背後にある意味的構造の相互関係に関心を抱き、連体修飾節構造など、いわゆる複文構造を中心に考察を行っている。同時に、個々の語の持つ語彙的情報が、統語構造にいかに関与するかという問題にも取り組んでいる。今後は、表現論・文体論に近い領域に関しても、文法論・意味論の側から接近する可能性を模索していきたいと考えている。

近藤 瑞木 [教授]

Prof. KONDO, Mizuki

近世の小説史と文芸思潮について研究している。特に文学史上、未検討の問題が山積する十八世紀の小説ジャンル(浮世草子、読本、談義本等)について、諸作品の基礎的な調査、整理を進めながら、この時代の小説史観の更新を目指している。また、近世文芸に於ける怪異の表象、怪談文化に関心がある。読本や絵本といったカテゴリーの枠を越えた近世怪異小説研究、ひいては絵画や演劇などのメディアをも包摂する近世怪異文芸論を展開している。

高桑 枝実子 [准教授]

Associate Prof. TAKAKUWA, Emiko

古代の日本文学および日本文化の研究。具体的には『古事記』『日本書紀』の神話・歴史叙述・古代歌謡、『万葉集』の和歌の読みを通して、古代人の思想や言語表現、文化、世界観などを探求している。主な考察対象は、上代の死と葬送に関わる文学、特に『万葉集』の挽歌。漢籍や中古以降の和歌も視野に入れ、当時の人々が死をどのように捉えていたか、挽歌とはどのような意味をもって詠まれた歌かを考察し、仏教が浸透する以前の古い日本の思想を探りたいと考えている。

服部 剣仁矢 [助教]

Assistant Prof. HATTORI, Keniya

古代の日本文学を研究しており、『古事記』や『日本書紀』、『万葉集』などのテキストを中心に分析している。「作品」に閉塞するのではなく、中世頃の文献も視野に入れつつ、人類学や神話学、考古学などの隣接分野の成果も参照しながら、これまでの古代文学研究の枠組みとは異なる視点からの研究を模索している。現在は武器、特に刀剣の記述に注目し、文化誌とは異なる、個別のテキストでの武器が担う役割や喚起するイメージからテキストをとらえなおすことに取り組んでいる。

Japanese Cultures / Japanese Language and Literature

○取得できる学位・資格

各資格には必要科目(例:教員免許は教職科目)の単位取得が必要です。

学士(文学)、修士(文学)、博士(文学)

教員免許 学部:中学校一種(国語)、高等学校一種(国語)

博士前期課程:中学校専修(国語)、高等学校専修(国語)

○近年の卒業生の進路・就職先(一部)

大学院進学 世田谷区役所 練馬区役所 人事院職員 埼玉県立高校教員 トヨタファイナンス 東京大学職員
石川県中学校教員 住友不動産販売 白河信用金庫

○近年の学位論文一覧(一部)

【卒業論文】

『万葉集』と『古今和歌集』における「霞」の捉え方の違い～「たなびく」霞と「たつ」霞～

「源氏物語六条御息所論」

「花宴で描かれる桜—受け継がれる桜の表象と『源氏物語』が付与した新たな価値—」

「更級日記における「夢」について」

『男色大鑑』論—白熱する三角関係から—

「里見弴『君と私と』で描かれる雑誌『白樺』ができた経緯」

「私」の「私小説」への挑戦—藤枝静男『空気頭』の試み—

「現代アニメにおける女性語の変遷—『プリキュア』シリーズを中心として—」

「化粧品広告の言語表現からみる肌に関する価値観の変化」

【修士論文】

『日本書紀』論—雄略天皇紀を読む」

『虫めづる姫君』論—「めづ」という行為が擬く《物語》—」

「樋口一葉「わかれ道」の研究 恋に落ちたメフィストフェレス」

「倉橋由美子の初期テキストにおけるサルトルの模倣と超越」

「Twitter の使用例から見る形容詞の意味変化と辞書の語釈」

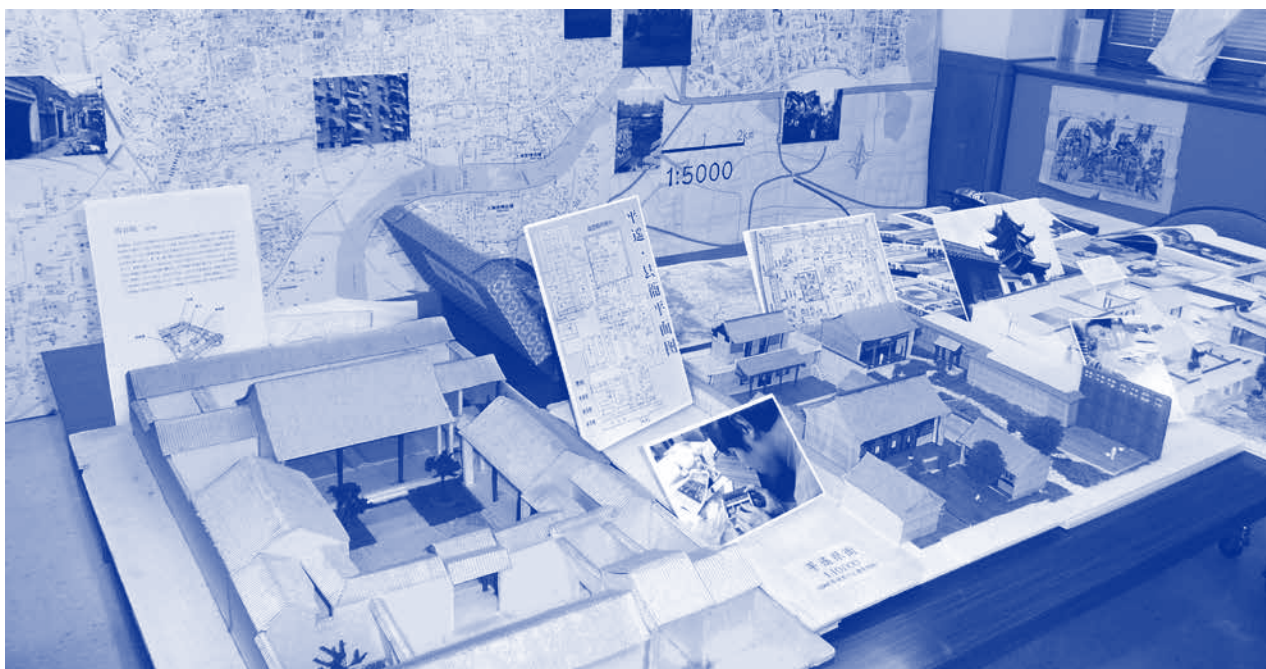
【博士論文】

『古事記』の研究—刀剣の記述を中心に」

「江戸狂歌史研究—化政期の狂歌判者石川雅望を中心に」

「戦後日本児童文学における「テキスト内ファンタジー」の問題」

教室(研究室)のHPアドレス >> <https://abbas.fpark.tmu.ac.jp/index.html>



「中国の都市絵巻を再現する授業」

いざ漕ぎ出さん学問の宇宙へ！ いざ分け入らん漢字の森へ！

実利ばかりを求める価値観が、世界中のあちこちで衝突を生み出しています。このような時代にこそ「虚学」である「文学」（実際には文化研究を指しているとお考えください）の価値が浮き彫りになるでしょう。ここ数年、日中関係は緊張度を増し、お互いの文化に対する認識不足もあらわになってきました。今こそ両者が見つめ合い理解を深めるべき時ではないでしょうか。

当教室は悠久の歴史をもつ中国の文化に、言語、文学、思想、芸術などの側面からさまざまな方法でアプローチし、中国との相互理解、相互批判に向けて、自主的に判断し主体的に関わることでできる人材の育成を目指しています。

また大学院における教育目的は、第一には中国文学・語学研究教育者の養成で、専門分野の知識や研究方法の教育にとどまらず、視野を広く持ち、文化的相互理解・相互批判の達成に向けて努力できる人間を育成することを目標としています。

学部生、大学院生ともに学生室や演習室を拠点にして、隣接する書庫に収蔵されている10万冊を超える豊富な資料・書籍を自由に閲覧・貸出でき、それらを存分に活用して勉学に専念できます。教員と学生の垣根はごく低く、授業時間以外でも学生室と同フロアにある各教員の部屋を訪ねて話し合う情景は日常的なものです。論文発表会で熱い議論が交わされる一方で、合宿やピクニックなどの楽しい行事を通じ、人間性を涵養することもわが研究室の伝統です。

○所属教員

佐々木 睦 [教授]

Prof. SASAKI, Makoto
中国古典文学、幻想文学、図像学、日中漫画交流史

大久保 明男 [教授]

Prof. OKUBO, Akio
中国近現代文学、特に「満洲国」時代の文学史、文化史

飯田 真紀 [教授]

Prof. IIDA, Maki
広東語研究、現代中国語文法

佐藤 賢 [准教授]

Associate Prof. SATO, Ken
中国近現代文学、映画研究

荒木 典子 [教授]

Prof. ARAKI, Noriko
中国語法史、語彙史、満漢言語接触

牛 耕耘 [助教]

Assistant Prof. NIU, GengYun
中国近現代文学、植民地文学・文化研究

Chinese Cultures / Chinese Language and Literature

○取得できる学位・資格

各資格には必要科目(例:教員免許は教職科目)の単位取得が必要です。

学士(文学) 修士(文学) 博士(文学)

教員免許 学部:中学校一種(中国語)、高等学校一種(中国語)

博士前期課程:中学校専修(中国語)、高等学校専修(中国語)

○近年の卒業生の進路・就職先(一部)

【学部卒業生】

ハウス食品、ゆうちょ銀行、日立エレベーター、クボタ空調、エフ・コーポレーション、高松建設、中野区役所、武蔵野市役所、上智大学職員、東京都庁、シンガーソングライター、京王ストア、プリンスホテル、カカクコムなど

【大学院修了生】

千葉大学、早稲田大学、上智大学、吉利大学(中国)、三菱UFJ銀行(北京)、大連外国語大学(中国)、長沙大学(中国)など

○近年の学位論文一覧(一部)

【卒業論文】

「ワン・ビン監督作品から考察する撮影者と被写体の関係性について」

「17世紀オランダ時代台湾のゼーランディア要塞～植民地経営における軍事・政治・経済的拠点～」

「中国語を含む日本の大衆歌曲の歌詞分析」

「『良友』画報の読者投稿募集」

「日本人学習者への中国語教育における“過”の位置づけと教育方法の提言」

「台湾の若年者の就職活動の実態について」

「人間と言語の関係性について—内モンゴル自治区の事例—」

「『早恋』はなぜ反感を持たれるのか～教育・思想の歴史から恋愛観との関連を探る～」

【修士論文】

「広東語の「界」の通時的研究」

「福清方言音韻研究～福清市東張鎮を調査地点に～」

「文学視点における賈樟柯の映画について」

「余華初期作品の分析及びその変化についての研究—1983年-1986年を中心に」

「『満洲国』の音楽団体に関する考察 ～新京における楽団の改組・変遷を中心に～」

【博士論文】

「中国雲南の対聯文化の特質に関する研究—生活領域における場所的存在形態の諸相—」

「山丁研究——満洲国を生きる作家の生涯と作品——」

「1960—1980年代の香港における日本製テレビドラマ受容の研究:中国大陸との比較を視野に入れて」

「中国におけるファンタジーの発展史——多様化・読者層・構造に着目して」

教室(研究室)のHPアドレス >> <https://chubun.fpark.tmu.ac.jp/newtop.html>



英語圏の言語文化を通じて、グローバルな知を育む。

もっともグローバルな言語とされる「英語」。本専攻ではイギリスやアメリカの伝統的な言語文化を学ぶと同時に、多様化し続ける英語圏文化への柔軟な視点と、その歴史や社会への深い理解を育みます。近代の黎明期における詩や演劇、18-19世紀の小説や社会・風俗、象徴主義やモダニズムなどの芸術運動、さらにはポストモダンの美学や文化理論にいたる広範な領域が本専攻の学びの対象です。また、こうした内容の講義や演習を受講する上で不可欠となる英語力を、「上級英語」「英作文」「英語表現論」「英語コミュニケーション論」といった多様な言語関連科目で学ぶことができます。

「英語」という高度な実践的知識を着実に身につけながら、ひとつの言語文化圏を形作る広大で複雑なフレームワークを感じ取り、真の意味でグローバルに思考することのできる人間になること。それこそが本専攻の学生諸君に求められる目標です。

○所属教員

高岸 冬詩 [教授]

Prof. TAKAGISHI, Toshi
現代詩研究、英語圏文学・文化

中村 英男 [教授]

Prof. NAKAMURA, Hideo
19世紀イギリス小説

吉田 朋正 [教授]

Prof. YOSHIDA, Tomonao
批評史、アメリカ文学・思潮

安井 マイケル [准教授]

Associate Prof. YASUI, Michael
日米比較文学、14世紀イギリス文学、20世紀アメリカ文学

越 朋彦 [准教授]

Associate Prof. KOSHI, Tomohiko
17世紀英文学

生駒 久美 [准教授]

Associate Prof. IKOMA, Kumi
19世紀アメリカ文学・文化

佐久間 千尋 [助教]

Assistant Prof. SAKUMA, Chihiro
19世紀イギリス小説

杉山 ゆき [助教]

Assistant Prof. SUGIYAMA, Yuki
中世英文学

English Studies / English Language and Literature

○取得できる学位・資格

各資格には必要科目(例:教員免許は教職科目)の単位取得が必要です。

学士(文学)、修士(文学)、博士(文学)

教員免許 学部:中学校一種(英語)、高等学校一種(英語)

博士前期課程:中学校専修(英語)、高等学校専修(英語)

○近年の卒業生の進路・就職先(一部)

大学院進学、中学校教員、高等学校教員、JAC Recruitment、JALエービーシー、KPMG税理士法人、NSD、アサヒ飲料、グレイステクノロジー、コスモ・コンピューティングシステム、相模原市役所、東通、日本ビジネスシステムズ、パーソルキャリア、三菱商事RtMジャパン、りそなホールディングス、岩佐商事、大田区役所、木下の介護、京王百貨店、システムフォース、スズケン、東武鉄道、フコク情報システム、山形県庁、レイヤーズ・コンサルティング、ルクレ、警視庁事務、フリーインターナショナル、Aphros Queen、電通デジタル、KDDI、環境省、日立物流、東京大学事務、日本公営、MSCジャパン、東京都庁、福岡市役所、三菱電機ライフサービス株式会社、フージャースホールディングスなど

○近年の学位論文一覧(一部)

【卒業論文】

『ベンジャミン・バトン』における優生学の影響」

『ハワーズ・エンド』におけるイギリス帝国主義とその周縁」

「村上春樹とレイモンド・チャンドラー——ハードボイルド小説の伝統における再構築」

『説得』における貴族的価値観の揺らぎ」

「モンスター誕生を招いた社会構造——Stephen King, *Carrie* を読み解く」

『アンクル・トムの小屋』の女性登場人物にみる女性の抵抗の可能性」

『日はまた昇る』におけるヘミングウェイとジェイク・バーンズのホモソーシャルリティ研究」

「余所者たちの往来——フォークナー『八月の光』を演ずる者」

『八月の光』の主人公——リーナ・グローヴに与えられた役割」

「アントニアの結婚——彼女に与えられた試練と成功」

『カラーパープル』におけるセリーの抑圧からの脱却」

『怒りのぶどう』を読み直す——生態学が作る「参加」の小説」

『青い眼がほしい』における登場人物たちの共通概念——劣等感からの抵抗の実行」

『武器よさらば』における恋愛——ヒーローたちによる恋愛ゲーム」

『ある婦人の肖像』における自己探究」

「“vertu”と*The Canterbury Tales*における階級の個性」

「ロマンティックラブに基づいた結婚と社会的生存の手段としての結婚」

『クラウド・アトラス』とハイパーテキスト」

【修士論文】

The Healing Narrative of Imagination: “Mother” and “Daughter” in Sarah Orne Jewett’s “The Foreigner”

James Joyce’s Unfinished Work in Progress: Stephen Hero and Chapters in the Life of a Young Man

教室(研究室)のHPアドレス >> <https://english.fpark.tmu.ac.jp/>

ドイツ語圏文化論 人文学科 / ドイツ文学 文化関係論専攻



ドイツ語から世界を見てみよう！

ドイツ文化は、ドイツ、オーストリア、スイスなどに共通して使用されるドイツ語を介して、それらの地域に独特の色彩を育み、中世・近代以来、音楽、文学、思想を始めとしてあらゆる分野で個性的な担い手を輩出してきました。近代化に乗り遅れた後進国性という、日本と共通する問題を抱える一方、大戦後の経済復興、東西ドイツの分裂、再統一といった政治・社会的な激変から様々な影響を受けたドイツ文化は、その魅力と刺激をいっそう私たちに与えて止みません。

ドイツ文学教室では、ドイツ文化についての広範な教育・研究を目指しています。中世から現代にいたるまでのドイツ、オーストリア、スイスなどを対象とする文学研究、ドイツ語の歴史的研究、文化批評・メディア論も含む思想研究、美術史・音楽・身体芸術などの芸術文化研究という4つの領域を核としながら、領域横断的な文化研究に積極的に取り組んでいます。ドイツ語およびドイツ文化の深い理解と高度な知識に支えられた批判的な視野を養うことを目標として、学生の自主性と創造性を重んじ、きめ細かな教育・指導を心がけています。

ドイツ語で書かれたもの、話されるものすべてを自分の研究テーマとして扱うことができます。自由に色々と学びたい意欲的な学生を歓迎します。

ウィーン大学との交換留学制度および夏期ドイツ語研修制度があり、ネイティブスピーカーによる講義や会話の授業もあって(会話の授業は学部のみ)、ドイツ語の実践的な運用能力を高めることにも力を注いでいます。授業の大半は少人数のゼミ形式で行われますので、アットホームな雰囲気の中で、ドイツ語やドイツ語圏の文化を学ぶことができます。

○所属教員

園田 みどり [教授]

Prof. SONODA, Midori

ドイツ文学、特に20世紀以降の現代ドイツ文学を研究。

レオポルト・シュレンドルフ [教授]

Prof. SCHLÖNDORFF, Leopold

19世紀以降のドイツ文学、特に黙示的文学、自伝およびオートフィクション、文学産業および文芸欄を研究対象とする。

福岡 麻子 [准教授]

Associate Prof. FUKUOKA, Asako

エルフリーデ・イエリネクを中心としたオーストリア現代文学、災厄と文学、フェミニズム文学を研究対象とする。

金 志成 [准教授]

Associate Prof. KIM, Jisung

冷戦期のドイツ語圏文学における「詩学」の研究、および現代文芸の翻訳・批評

犬飼 彩乃 [助教]

Assistant Prof. INUKAI, Ayano

現代ドイツ文学、翻訳論

German Studies / German Language and Literature

○取得できる学位・資格 各資格には必要科目の単位取得が必要です。

学士(文学)、修士(文学)、博士(文学)

○近年の卒業生の進路・就職先(一部)

東京都立大学大学院、東京大学大学院、東京都庁、ANA、日立物流、東芝、富士ゼロックス多摩、ブリジストンタイヤ・ジャパン、全労済、たき工房(広告製作会社)、株式会社エムティーアイ(IT関連企業)、代々木ゼミナール、コスモスイニシア、八王子市役所、山梨県庁 など

○近年の学位論文一覧(一部)

【卒業論文】

„Die Magie der Macht. Analyse der Herrschaft des Meisters in Otfried Preußlers Roman Krabat zwischen der Besessenheit von Magie und der Versuchung des Bösen.“

「フェミニズムの観点からみる『ラプンツェル』と『塔上のラプンツェル』」

「インゲボルク・バツハマン『三十歳』における衝撃がもたらす距離とそれに伴う言葉の変化について」

「ハインリッヒ・フォン・クライスト『拾い子』における「家族」とその成員が陥る「失神」について」

「オーストリア＝ハンガリー帝国時代における「オーストリア的」と第一次世界大戦後の「ハプスブルク神話」

「〈ファンタージェン〉におけるファンタジーと現実の関係」

「ハインリヒ・ベルの短編三作品における戦中・戦後のドイツの教育に対する問題提起」

「仮面を付けたラッパーとヒップ・ホップの空間」

「不安時代のアニメーション作品—現代におけるベンヤミンのアウラ概念の可能性—」

「この生こそが自分を死へと至らしめたのだ—フーゴ・フォン・ホーフマンスタール『第六七二夜のメルヘン』におけるデカダンスの在り処—」

「交響曲の社会史」

「19世紀を生きた二人の女流音楽家—才能と「女性」の間で悩む女たち—」

【修士論文】

「Die Doppelheit von Erich Kästner エーリヒ・ケストナーの二重性」

「時代のザイスモグラフ—1920年代エルンスト・ユンガーの〈新〉ナショナリズム—」

「戯曲『野生の人』を読み解く—イディッシュ演劇の移り変わりを追って—」

「戦間期日本におけるナチス文化の受容とアンチ・アメリカニズム—映画を例に—」

【博士論文】

「〈女の子〉という運動—ワイマール共和国末期のモダンガール—」

「不可能への挑戦—アルノ・シュミットの作品を日本語化する際の諸問題—」

教室(研究室)のHPアドレス >> <https://dokubun1.fpark.tmu.ac.jp/>

フランス語圏文化論 人文学科 / フランス文学 文化関係論専攻



フランスの言語、文学、思想、芸術に触れて、新しい価値観を身につけよう。

フランスは、西欧文明の成熟のひとつの極であるとともに、常に新しい文化的試行の場でもあります。フランス語圏文化論教室は、長い歴史と厚みをもつこの重層的な文化を広い視野のもとに捉えるために、言語、文学、思想、芸術などさまざまな分野を学習・研究の対象にしています。学部・大学院ともに、自由闊達な雰囲気の中、多様なテーマで講義や演習がおこなわれ、海外から研究者を招いてセミナーも開いています。短期・長期のフランス留学を通して、また交換留学で滞日するフランス人留学生との交流を通して、生きたフランス文化に触れる機会も豊富に提供されています。

○所属教員

藤原 真実 [教授]

Prof. FUJIWARA, Mami
18世紀フランス文学

西山 雄二 [教授]

Prof. NISHIYAMA, Yuji
現代フランス文学・思想

グロワザール・ジョスラン [准教授]

Associate Prof. GROISARD, Jocelyn
西洋古典学・古代哲学史

大須賀 沙織 [准教授]

Associate Prof. OSUGA, Saori
19世紀フランス文学

須藤 健太郎 [助教]

Assistant Prof. SUDOH, Kentaro
映画史、映画論

○取得できる学位

学士(文学)
修士(文学)
博士(文学)

○近年の卒業生の進路・就職先(一部)

和歌山県庁、東京都特別区 I 類、愛川町役場、安中市役所、日本生活協同組合連合会、横浜銀行、大同生命保険株式会社、KIHACHI、日本香堂、日揮株式会社、京王百貨店、アンスティチュ・フランセ、など

○近年の学位論文一覧(一部)

【卒業論文】

「フランス社会におけるPACSの役割とその意義」
「ロベール・ブレソンにおける脚色とシネマトグラフ」
「クロード・モネにおける「光」—《陽だまりのライラック》から睡蓮の連作まで—」
「シャルル＝アンリ・サンソンの生涯と心情の分析」
「アルザスにおける帰属意識の変遷」
「サミュエル・ベケット『名付けえぬもの』から見出す言葉の可能性」
「フランスにおける日本アニメの受容」
「『レ・ミゼラブル』に託された思想」
「日仏のトイレ文化の変遷と考察」

【修士論文】

「ボードレールの他処(ailleurs)における「匂い／香り」の諸機能」
「発明としての出来事——ルソーを読むド・マンとデリダ」
「ジャック・デリダの現象学的存在論—フッサール、ハイデガーとともに」
「モリエール喜劇における召使の役割について」
「媒体としての詩人—コクトーの『オルフェ』をめぐる考察」
「フランソワ・モーリアック『テレーズ・デスケルー』、『夜の終わり』における神の救い」

【博士論文】

「レヴィナスのエコノミー—正義と慈愛のあいだ」
「ミシュレと生命科学—歴史・大地・科学」
「ギョーム・ポステル『世界の驚異』(1553年)研究—東西インドの発見と万物復元」

人社 Q&A

みなさんが抱えている不安や疑問に
Q&A形式でお答えします。

Q1 首都大学東京は東京都立大学に変わったと聞きましたが、学習環境は大丈夫でしょうか？

A 2005年に都立の四つの大学が統合され、首都大学東京が生まれました。2020年4月には、その名称を東京都立大学に変更しました。人文社会学部は、1949年創立の東京都立大学人文学部を母体としており、70年の歴史があります。研究・教育ともに高い評価と実績をもち、全国の大学に数多くの教員を送り込んできました。名称を変えても、校舎や設備はそのまま使用します。東京都立大学の人文社会学部は**教育と研究の蓄積が十分にあり、最高の学習環境を有しています**。各研究室の研究書庫にも豊富な蔵書、資料がありますから、安心して入学してください。詳しくは、2ページの「沿革と特色」をお読みください。

Q3 2年次から専門課程に進むと聞きましたが、好きな教室に進めるのですか？

A 2年次から所属する教室は、所属する学科ごとに1年次の終わりまでに決定されます。本当に学びたいことと、志望のミスマッチをなくすために、10月と11月に教室ごとのガイダンスが行われます。教室ごとに定数が決まっており、受け入れはその範囲内で行われます。希望者が定員数を超えた教室は、成績による選抜があります。第1志望が認められなかった学生の所属は、第2志望～第5志望によって決まります。1年次の成績が悪いと、希望する教室に進めないこともあります。入学後は頑張って勉強してください。



事務職員の方々は
とても親切ですから、
何でも聞きにきて
ください



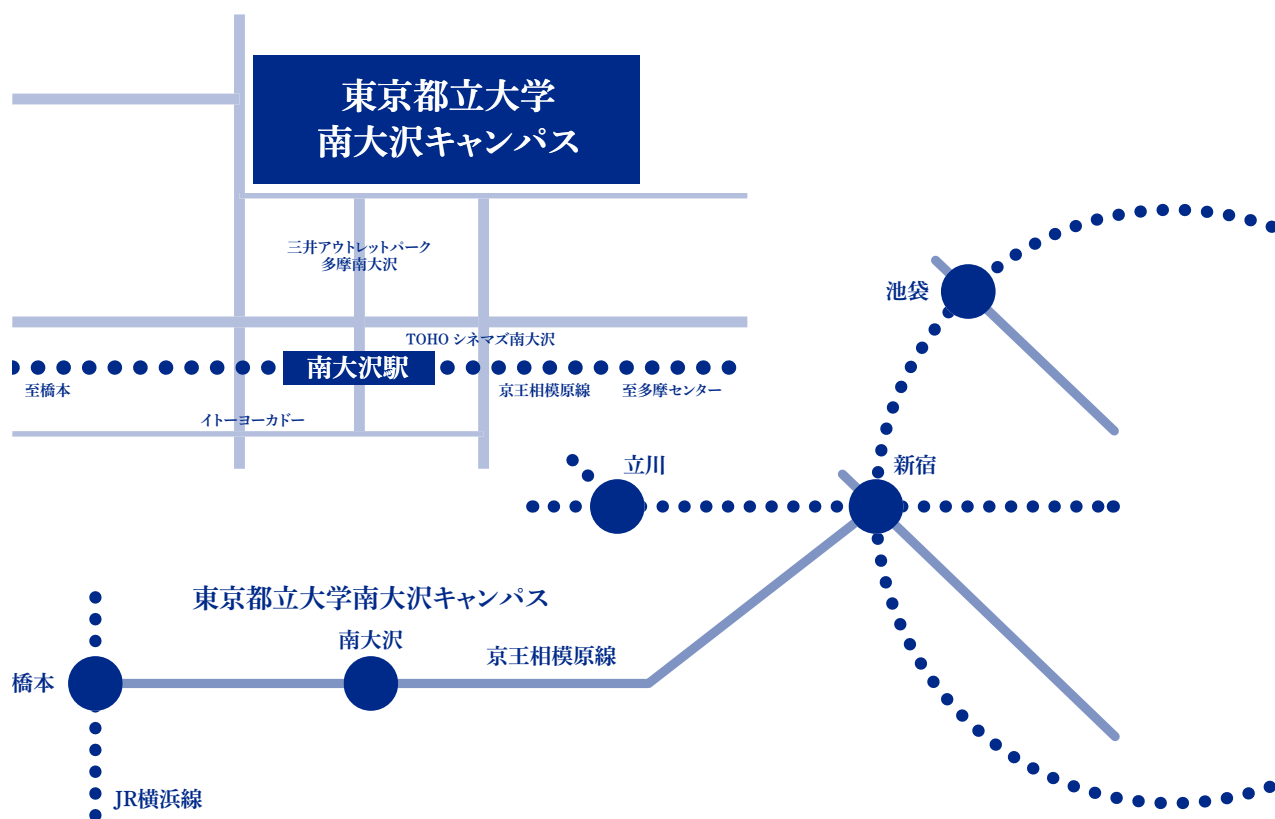
Q2 授業料や入学金について教えてください。

A 授業料は大学も大学院も年額520,800円で、これを前期・後期に分けて納入していただきます。入学金は、東京都民は141,000円で、都民外は282,000円となります(2024年度実績)。合計した初年度納入額は都民外で802,800円(東京都民:661,800円)です。これだけだと私立大学と変わらないように見えますが、私立大学の場合はこれ以外に教育環境整備費、教育充実料、実習費など様々な名目で別途費用がかかり、初年度納入金(※)は早稲田大学(文)が129万5000円、明治大学(文)が132万4000円、中央大学(文)が129万7300円です(※金額はいずれも、2024年度入学の場合)。本学は経済的に苦しい学生のための**授業料免除制度(全額免除、半額免除)**があります。また各種奨学金も取得することができます。学生寮も備えており、経済的負担を軽減することができます。**安い学費で一流の教育**を受けられることが本学人文社会学部の最大の長所と言えましょう。

Q4 就職状況について教えてください。

A 厚生労働省の発表した「令和4年度「大学等卒業者の就職状況調査」(2023年4月1日現在)」によりますと、令和4年度の大学卒業者の就職率は97.3%と前年同期比より1.5ポイント上昇しました。人文社会学部/人文・社会系の就職率は97.13%です。人文社会学部/人文・社会系卒業生、人文科学研究科修士生の具体的な就職先や進路については、各教室のページをご覧ください。

アクセスマップ



2024年大学説明会

詳細は決定次第、以下のホームページでお知らせします。
<https://www.tmu.ac.jp/entrance/pamphlet.html>

2024年大学院説明会

詳細は決定次第、以下のホームページでお知らせします。
<https://www.jinsha.tmu.ac.jp>

東京都立大学管理部文系学務課人文社会学部教務係

〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1

電話 (042)677-1111 (代)

平日 9:00 ~ 12:00 / 13:30 ~ 17:00 (土・日・祝日は休み)

東京都立大学ホームページ <https://www.tmu.ac.jp>

人文社会学部ホームページ <https://www.jinsha.tmu.ac.jp>

人文科学研究科ホームページ <https://www.jinsha.tmu.ac.jp>

紹介映像 <https://youtu.be/bry-WeP0VZk>



<https://www.jinsha.tmu.ac.jp>